

HTLV-1 関連疾患研究領域について

1. 経緯

- 平成22年度まで、厚生労働科学研究における、HTLV-1に関連する研究は、新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業、第3次対がん総合戦略研究事業、難治性疾患克服研究事業等の研究事業において、HTLV-1、ATL（成人T細胞白血病）や、HAM（HTLV-1関連脊髄症）に関する研究計画が採択された場合等に実施されてきた。（平成22年度には、各事業の合計で8研究課題が実施された。）
- 平成22年9月に、内閣総理大臣の指示により、「HTLV-1 特命チーム」が官邸に設置され、当該チームが平成22年12月20日にとりまとめた「HTLV-1 総合対策」において「厚生労働科学研究費補助金において、HTLV-1 関連疾患研究領域を設け、研究費を大幅に拡充する」とされた
- HTLV-1 総合対策に基づき、平成23年度予算において、関連する研究事業が連携してHTLV-1 関連疾患研究領域(10億円)を設けることとした。

HTLV-1 総合対策（平成22年12月20日 HTLV-1 特命チーム）（抜粋）

5. 研究開発の推進

（1）研究の戦略的な推進

HTLV-1 及びこれに起因するATL・HAM について、疫学的な実態把握とともに、病態解明から診断・治療など医療の向上に資する研究に戦略的に取り組むよう、総合的な観点から、研究への取り組みを推進する。また、HTLV-1・ATL・HAM に関連する研究班の総括的な班会議を実施し、研究の進捗状況や研究の方向性を共有して、戦略的に研究を推進する。

特に、HTLV-1 への感染者は日本に多いことを踏まえ、国際的にも研究を先導することを目指す。

（2）HTLV-1 関連疾患研究費の拡充

厚生労働科学研究費補助金において、HTLV-1 関連疾患研究領域を設け、研究費を大幅に拡充する。

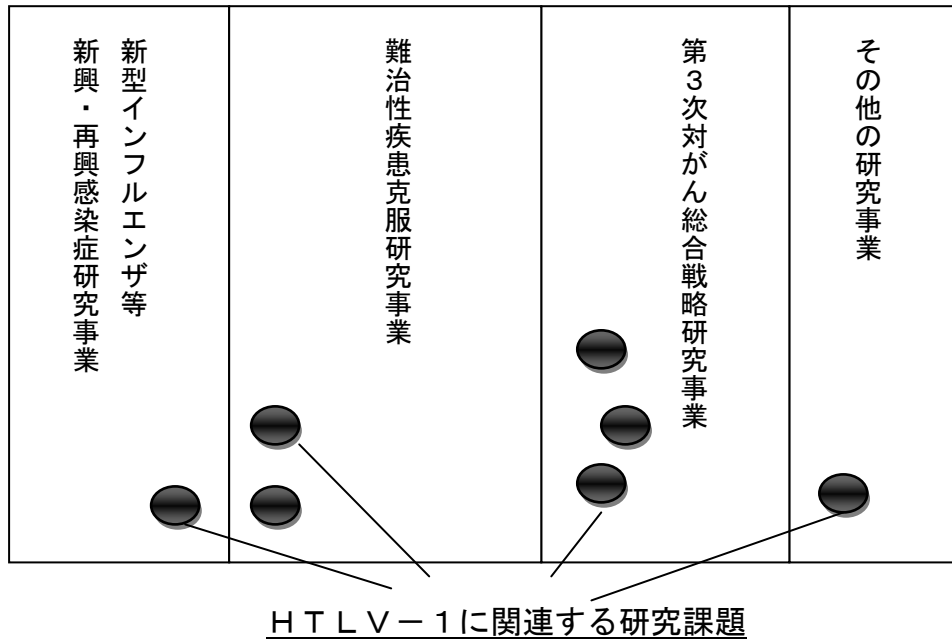
2. 研究体制

- 「HTLV-1 関連疾患研究領域」を、関連する以下の4つの研究事業の一部を横断する領域として設け、各事業の合計で10億円の研究費を充当する。
 - （※）新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
 - 難治性疾患克服研究事業
 - 第3次対がん総合戦略研究事業
 - 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
- HTLV-1 関連疾患研究領域の運営に当たっては、公募・評価・予算執行など研究事業

の運営は各事業において実施するが、関連する研究班の総括的な研究班会議を行うなどにより、総合的・戦略的な研究の推進を図る。

(イメージ)

【平成22年度までの体制】



【今後の体制】

